

活動報告書

1 団体名 特定非営利活動法人 自立支援センターおおいた
2 活動内容 活動名：別府市「市営温泉バリアフリー情報」発信事業 地域で温泉に入りたいと願う、高齢者・障害者の方々が、温泉入浴の一步を踏み出す切っ掛けをつくる事を目的に本事業を実施する。概要として、別府市の市営温泉「海門寺温泉・不老泉・堀田温泉・柴石温泉・浜田温泉・亀陽泉」は、バリアフリー設計となっている。そのバリアフリーの状況を、車椅子ユーザーの目線で細かな調査を実施し、「別府市営温泉バリアフリーパンフレット」を作成する。別府市内に住む個人、病院、施設、団体等を含め、多くの高齢者・障害者の方々へパンフレットの配布をする。又、そのデータをHPにて公開、別府市ウェブサイトともリンクし、誰もが、いつでも情報を得られるようにする。
3 活動期間 2019年 9月 25日から 2020年 3月 27日まで
4 活動実施内容 2019年09月：事業開始。バリアフリー調査準備及び調査日程調整等 2019年10月：市営温泉バリアフリー調査等（全6ヶ所） 2019年11月：調査内容まとめ・画像加工等 2019年12月：パンフレット原稿作成 2020年01月：パンフレット原稿作成 2020年02月：パンフレット原稿構成打合せ 2020年03月：各施設へのパンフレット配布及び広報。
5 活動の成果 今回の事業において、市内6ヶ所のバリアフリー調査を行うと共にパンフレットにまとめて情報を集約したことにより、これまでより更に情報の把握がしやすくなり、温泉入浴を諦めていた方や考えた事もなかった方々に興味を持っていただけたと感じている。 また、パンフレット完成後に新聞社からの取材でパンフレットの存在を別府市内をはじめ県内や県外の方々にも広報する事が出来た事からパンフレットへの問合せが発生した事から市内におけるバリアフリー設備の整った温泉施設の知名度も上がったと考える。 この事から、事業の目的であった分け隔てなく誰もが温泉を利用できるユニバーサルな温泉文化の構築に少なからず寄与できたのではないかと考える。
6 反省点や今後の目標 反省点としては、着手前の事業予定より時間がかかり事業終了になった事は反省として今後の活動に活かしていきたいと考えている。 次に事業を行った事に対する今後の目標は、今後も調査活動や情報発信等の継続を行いつつ、重度の障害がある方、でも温泉入浴が出来るよう、地域の介護事業所等との連携を行い、

様式第10号（第10条関係）

温泉入浴介助システムの構築を達成すると共に別府市の一番の観光資源である「温泉」を国内・外に更には世界へもアピールしたユニバーサルツーリズムの促進と最終的な目標である「誰もが住みやすい、訪れやすいユニバーサルデザインのまち別府市」の実現を目指す。